植物學雜誌第二十二卷 第二百五十七號 明治四十一年六月二十日

○「カリオデルマトプラスト」即チ核膜形成體ニ就テ

On "Karyodermatoplast," a Nuclear Membrane-forming Body. By, S. Kusano.

草 野 俊 助

予ハ昨年六月刊行植物學雜誌第二百四十五號ニ於テ葛ニ寄生スルシンキトリウム、プエラリエー(Synechytium Puerariae)ノ細胞ニ中心體様物ヲ發見シ、其作用ノ核膜形成ニ關スルコトヲ唱導シタリシガ、スチーブンス氏ハ予ガ研究ト獨立ニシンキトリウム、デシビエンス(S. decipiens)ニ於テ類似體ヲ發見シ、之ヲ昨年十二月發兌獨乙菌學雜誌(Annales Mycologici)第五卷ニ發表セリ。氏自カラ云フ如ク核分裂ノ狀況ヲ所望通リニ觀察シ能ハザリシヲ以テ、該體ノ予ノ發見セル中心體様物ト全然同一ナルニ拘ラズ、核膜トノ關係ニ就テハ一言モ云フ所ナク、只不可思議ナル放射體トシテ疑問ヲ存セリ(F. L. Stevens, Some Remarkable Nuclear Structures in Synchytium. Ann. Mycol. V. 1907. p. 480)。其形成順序及ビ核トノ關係ハ氏ノ記事ト精密ナル圖版トニヨリテ推スニ、葛菌ノ場合ト秋毫モ異ナルナシト雖ドモ、只予ノ疑ノ存スル處ハ、氏ノ圖ニアリテハ該體ノ初メテ現出スル時期ニ於テ既ニ業ニ核膜ヲ頗ル明瞭ニ畫カレタル一事アルノミ。予竊カニ之ヲ以テ氏ノ觀察ノ足ラザルニヨルト思惟シ、「プレバラート」ニアリテハ實際核膜ハシカク明カニ形成シ居ラズシテ、恐ラクハデシビエンスモプエラリエート同様ニ中心體様物ノ力ニヨリテ核膜ヲ形成スルコトハ殆ド疑ヲ容レザルモノト見做シ居レリ。此豫想ハ其後間モナクシテ發表セラレタルグリッグス氏ノ論文ニヨリテ誤ニアラザルコトヲ知ルニ至レリ (R. F. Griggs, On the Cytology of Synchytium, III. The Role of the Centrosome in the Reconstruction of the Nucleus. The Ohio Naturalist, VIII. 1908, March, p. 277) グ氏ハ全然ス氏ノ研究材料殊ニ其出來上レル「プレバラート」ト之ニ附記セル記事トヲ供セラレタルヲ以テ見レバ、氏ノ研究ハ取モ直サズス氏研究ノ再調査ヲナシタルモノト云フベシ。氏ノ研究ニヨレバ中心體様物ノ現出スル時ハ

○本邦産あみがさたけ屬ニ就テ 川村

核膜未ダ形成セラレズ、放射線ノ不明トナルニ從テ核膜漸次明カニナルモノナレバ、核膜形成順序ハ予ノ豫想ニ違ハズ葛菌ノ場合ト全ク同一ニシテ氏又其論文ニ於テ予ノ說ニ同意スルコトヲ言明セリ。

今ヤ中心體様物ガ核膜トノ關係アルハ二種ノ菌類ニ於テ確メラレタレバ、彼ノ疑問多キ高等植物中心體ノ如ク不確實ナルモノニアラズ、又該體ノ現出ハ偶然ノ出來事ニアラザルコトモ明カナレリ。即チ兩氏及ビ予ノ研究ハ從來廣ク知ラレタル放射體中ニ一新例ヲ加ヘタルモノニシテ、而シテ其作用ハ他ノ類似體ト同一ニアラザルガ故ニ予ハ區別ノ爲メ之ニ「カリオデルマトプラスト」即チ核膜形成體(「カリオ」ハ核、「デルマ」ハ膜、「プラスト」ハ形成ノ意)ナル名ヲ附セント欲ス。

○本邦産あみがさたけ屬ニ就テ

川村 清 一

我邦ニ於テあみがさたけニ就キ記セル最モ古キ書ハ蓋シ岩崎常正氏ノ本草圖譜ナルベシ同書第七卷ニハ結實體頭部ノ膨大ニシテ柄部ノ小ナル一圖ヲ載セ和名あみがさたけ漢名仙人帽トシテ說ケリ(坂本浩然著菌譜ニハ仙人帽ナル漢名ヲきぬがさたけ(Dictyophora Phalloidea)ニ當ツ)是ニ就テ見ルニ外形 *Morchella esculenta* ニ似タレドモ單ニ粗雜ナル著色圖ヲ示スニ止マリテ特徵ノ要點ヲ缺ケルヲ以テ今日明確ニ其ノ種名ヲ判定スルヲ得ズ然レドモ是ニ由リあみがさたけナル和名ハ昔時已ニ本屬ノ或モノヲ指ス名稱トシテ用ヒラレ居タルハ明ナリ、次ニ是ヲ學術的ニ記述シタルモノニハ白井光太郎氏ガ曾テ新撰日本隱花植物圖說中ニ一種 *M. esculenta* ニ就テ寫生圖ヲ示シテ記述セラレタルヲ見ルノミニシテ此他ニ本屬ノ菌ニ就キ深く記載セルモノナシ、唯本邦産菌類目錄トシテ Hennings 氏ハ雜誌 *Hedwigia*, 1900, p. 157 及 *M. conica* Pers. ヲ又雜誌 Engler, *Botanische Jahrbuch fur Systematik*, 1902, p. 44 及 *M. conica* Pers. 及 *M. elata* Pers. ノ二種ヲ記セリ、松村博士著植物名鑑隱花之部及ビ白井氏日本菌類目錄ニモ